



膠原病通信第8号

2023年11月 文責：橋本 求



膠原病患者さんが知っておきたい感染症の見つけ方、防ぎ方

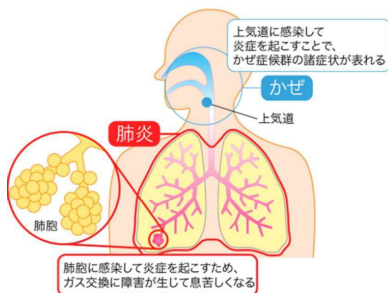
膠原病通信では、これまで、病気の特徴について説明をしてきましたが、本号では、膠原病患者さんに気をつけていただきたい感染症についてご紹介します。

膠原病患者さんでは、免疫が過剰に働いて自分の体を攻撃しています。そのため、その治療に使うお薬は（例えばステロイド剤など）、しばしば免疫力を低下させる場合があります。そのため、普通の人では軽くすむような感染症でも、重症化してしまう場合がありますので、感染症には特に注意していただく必要があります。特に新しい薬をはじめて6か月以内の患者さんは、感染症にかかる率が高いことが知られていますの注意しましょう。

本号では、体の中の部位別に、特に注意していただきたい感染症をご紹介します。

1. 肺からの感染症

皆さんは**風邪**と**肺炎**の違いをご存じですか？風邪は**ウイルス**によっておきる**上気道**（鼻から気管支まで）の感染症です。通常は、2、3日でよくなります。一方、肺炎は、感染が**肺の中**にまで広がって、酸素化にも障害をきたしたものです。肺炎は、一般的には**細菌**の感染によっておこりますが、新型コロナウイルスのように、ウイルスなのに肺炎を起こしてしまう場合もあります。一般的に、細菌に対しては抗生物質がよく効きますので、



恩賜済生会HPより

肺炎になった場合は、病院に行って治療してもらうことが重要です。では、風邪から肺炎に進展してしまったことをどう見分けたらよいのでしょうか？それは、**風邪をひいて2、3日しても熱が下がらず、痰のからむ咳がでてきたような場合**です。

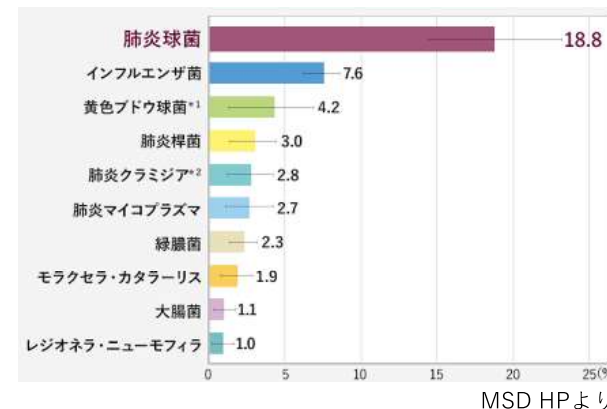
あるいは、**パルスオキシメーターという機械を指にあてて、酸素濃度が下がってきたとき**（一般には98%以上の値を示しますが、例えば95%以下のときは、酸素化に何らかの異常がある可能性があります。今はインターネットでも購入できますので、肺に病気をもっている人は、ご自身で購入するのもよいでしょう。



日本呼吸器学会HPより

肺炎を防ぐ有効な方法としてワクチンがあります。コロナやインフルエンザのワクチンは皆さんもよくご存じだと思いますが、それに加えて、65歳以上の方であれば、肺炎球菌ワクチンをうつことができます。これは、肺炎の中で最も多い原因菌ですので、風邪から肺炎にすすむのを防いでくれる可能性があります。

また、膠原病患者さんで気をつけていただきたい特殊な肺炎として、非結核抗酸菌症（土いじりや土埃で感染します）、レジオネラ肺炎（温泉で感染します）、ニューモシスチス肺炎（乾いた咳がでて、呼吸が苦しくなります）などがあります。



どの肺炎を予防するためにも、マスクやうがいも有効です。煙草をやめることも非常に重要です。誤嚥性肺炎を防ぐために口腔内ケアも重要です。

2. 皮膚からの感染症

皮膚からの感染症で、特に気をつけていただきたいのは、**蜂窩織炎と帯状疱疹ヘルペス**です。蜂窩織炎は、足などの傷口からばい菌が入って、皮膚や皮下組織に感染し、皮膚が腫れて赤くなったり、熱をもったりします。特に足から菌が入ることが多いので、予防するためには、**フットケア**が重要です。**帯状疱疹ヘルペス**は、昔かかった水痘（みずぼうそう）が、免疫が弱ったことで再活性化しておきる病気です。特徴として、**体の片側だけにおきる**ことと、**水ぶくれを伴う赤い皮疹がよりあつまっている**ことがあげられます。

早めに治療しないと神経痛を残す場合がありますので、このような皮疹がでたらすぐに病院を受診するようにしましょう。また、現在では、帯状疱疹に対するワクチンもできましたので（免疫が弱っている方は、従来の生ワクチンでは発症してしまうリスクがあるので、新しい不活化ワクチンをうつ必要があります）、心配な方は接種しておくのもよいでしょう。



3. 尿路からの感染症

尿路からの感染症は、膀胱から腎臓へと上がっていきます。膀胱にとどまっている間は、尿意が近いとか、排尿時に痛いなどの症状がでますが、熱はでません。しかし、腎臓にまであがってきたら、熱がでて腰が痛くなってきます。

腎臓から血液にまで入ると敗血症になる場合もありますので要注意です。尿路感染症は、膀胱から上に上がってきますので水分をよくとり、尿意を我慢しないことが予防になるでしょう。



4. 胃腸からの感染症

胃腸からの感染症は、ほとんどがウイルス性で、下痢をして体の中から外にできればよくなりますが、中には細菌による腸炎もあります。生魚や生卵など、火の通っていない食べ物を食べた際には注意しましょう。また冬季には貝類などからうつるノロウイルスがあるので注意が必要です。他にも様々な感染症がありますが、紙面の関係からすべてを紹介することはできません。しかし、どの感染症を予防するためにも、バランスのとれた食事を食べること、適度の運動と十分な睡眠が重要です。

そして、**膠原病患者さんでは、治療薬の影響で免疫が弱くなっているため、感染症にかかったとしても熱が出ない場合があります。**ですから、たとえ熱がでなくても、体がしんどかったり、息が切れたりするときは、重大な病気が隠れている可能性がありますので、必ず病院を受診するようにしましょう。



大阪公立大学医学部附属病院

膠原病・リウマチ内科外来

TEL ☎ : 06-(6645)-3301

初診受付時間： 9:00~10:00 診察時間： 9:00~15:30

外来担当表

月	火	水	木	金
渡部 龍	山田 真介	橋本 求	渡部 龍	橋本 求
山田 真介		勝島 将夫		